

保険者紹介 五條市

輝く未来へ、ともに進もう

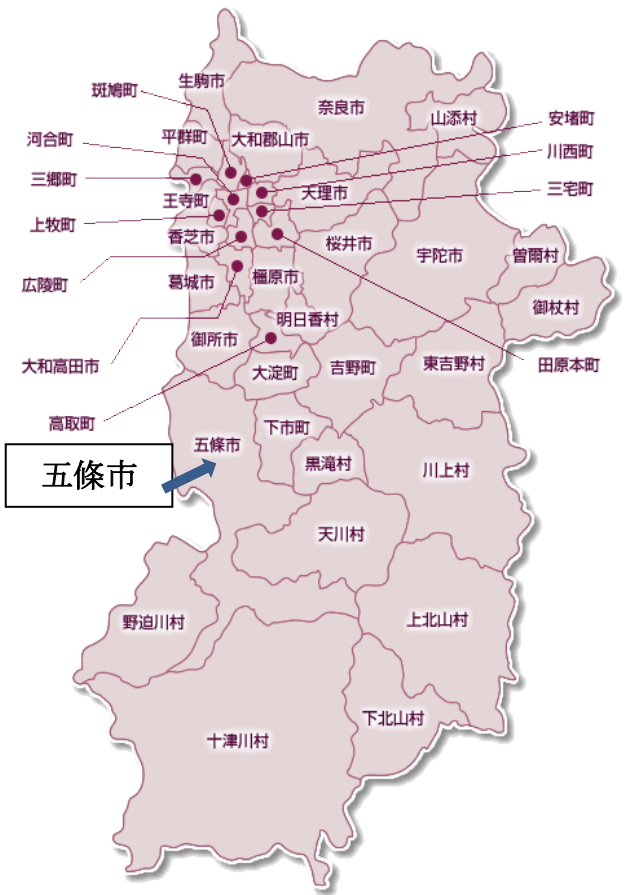


◇市制60周年・五條市

今回、紹介するのは、奈良県の南部の市である五條市です。五條市から、南部に国道168号線を

南下すれば、十津川村から和歌山県新宮市に達する。五條市から西へ京奈和自動車道又は国道24号線を西進すれば、和歌山県和歌山市に到達する。古来からここ五條市は重要な土地として着目され、江戸時代には五條代官所が置かれていた。現在でも、裁判所、検察庁、法務局の支部が置かれている。

市内の新町通りには、江戸から昭和にかけての建物が、900メートル連なり、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。江戸時代の町家や寺社の間に昭和



五條市役所の正面

初期の近代建築が混ざり、歴史散策にはもってこいの場所です。五條市は、昭和33年に市制施行してから、60周年を迎えることになる。

その後、平成17年には、西吉野村、大塔村とも合併し、市域が大きくなっている。今、市役所には60周年の垂れ幕がかかっており、本年10月15日には、市民会館で記念式典が開催された。

「明治維新発祥の地 五條」というモニュメントも市内に建てられている。明治になる前の文久3（1863）年、天誅組が五條代官所を襲い、「五條新政府」と宣言し、時代を先取りしたが、機は熟しておらず、流れは、彼らの思惑とは違う方向に動きだし、幕府軍の討伐を受けて、奈良県東吉野村で壊滅した、明治維新の先駆けとなった地でもある。

五條市の旧大塔村地区は、標高が高く、空気が澄みきっていることから、星空が間近に見えることで、大塔コスミックパーク星のくにがある。天文台、天体望遠鏡付の宿泊施設等があり、ゆっくりと天体観測ができることが好評を博している。



柿博物館

五條市の名産としては、秋の味覚「柿」がある。市町村における柿生産の日本一は、五條市だということで、柿の形をした柿博物館が、五條市の旧西吉野村地区にある。柿の歴史や食べ方などを知ることができ、その付近一帯は、たくさん柿畑がある。



星のくにの天文台

旧の西吉野村、大塔村にも支所があり、保険の申請や保険税の収納など実施しているが、それ以外はすべて保険課で統括している。五條市の人口は、31,430人と減少しつつある。高齢化率は年々上昇しており、平成29年4月現在で34.26%となっている。後程述べる五條市のデータへ



田中保険課長

◇五條市の国民健康保険事務
五條市における国民健康保険事務を所管しているのは、すこやか市民部保険課である。10月初旬に訪問させていただき、田中加代課長と戸野哲課長補佐に話を伺った。

五條市概要データ

〈平成29年9月現在〉	
面積	292.02km ²
人口	31,430人
世帯数	13,644世帯
高齢化率	34.26%※
国保被保険者数	9,501人
国保加入率	30.23%
(※は平成29年4月現在)	



戸野保険課課長補佐

ルス計画では、平成52年、今から23年後には、高齢化率は、44.8%になると推定している。

◇五條市のデータヘルス計画
平成20年9月に策定された「五條市の第5次総合計画」では、「豊かな自然と歴史が織りなすなごみとロマンとふれあいの創造都市」を将来像と定めて、その基本理念2に「みんなが安心して暮らせるまちづくり」を掲げていて、医療や社会福祉の主要施策が網羅されている。そして、具体的には「医療給付の制度維持、適正運営による健康増進、生活の質の向上」の取組では、「40歳以上被保険者の特定健診(内臓脂肪症候群の検査)」の受診率が、10年後の目標値として65%と、「健診結果での要指導者となった者の保健指導の受診率」が、10年後の目標値として45%と、メタボリックシンドローム該当者数が、10年後の目標値として10%減という指標が示されている。この総合計画を踏まえ、平成27年度から平成31年度を計画期間とした「五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が作成され、この戦略

を上位計画として、本年3月に「五條市国民健康保険データヘルス計画」が策定された。

このデータヘルス計画ができる前提には、平成20年4月に策定された「五條市特定健康診査等実施計画」及びその5年後に策定された「五條市特定健康診査等実施計画（第2期）」によって、特定保健指導を実施してきた経緯がある。

データヘルス計画の期間は、平成29年度から平成34年度までの6年間を設定し、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を展開しようとしている。

◇被保険者数の減少

五條市の平成29年9月現在の国民健康保険の加入状況は、加入世帯数5301世帯、被保険者数は9501人、同加入率30・23%である。被保険者数は4年前の平成25年3月の11、157人に比べ14・8%の減少で、同

加入率は約2・6ポイント減少している。この減少は、総人口が減少していることと、制度改正（社会保険の適用拡大）により、国民健康保険から社会保険に異動される人が多いということだと推測されている。

◇国税の収納率

国民健康保険税の収納状況は、平成28年度現年分の収納率は94・7%（県平均93・89%）であり、滞納繰越分は26・02%（県平均16・92%）であり、県内市町村平均よりかなり高く、県内市では3位となっている。

税務課の徴収対策室で、市税の徴収を促進しているが、その徴収対策室と連携しながら滞納整理を行っている。連絡を取り合ったりしていることである。「税は納めるべきもの」として、滞納者に対しては、臨戸徴収ではなく、庁舎に来てもらうスタンスを堅持されていることであ

る。

今は、過去の滞納分を整理しているの、それを解決すれば、数字に出てくることである。

◇1人あたり医療費

五條市の1人あたり医療費は、平成24年度306、443円（県平均312、581円）、平成25年度311、164円（県平均320、830円）、平成26年度328、445円（県平均327、460円）、平成27年度342、478円（県平均344、270円）であり、平成28年度は338、168円という数字である。平成27年度に医療費が上がっているのは、オプジーボやハーボニ等の高額な医薬品が使用されたことによると考えている。後期高齢者1人あたりの医療費は、平成26年度に911、938円（県平均は923、582円）で高額な市町村から17番目であったのが、平成27年度は981、918円（県平均944、915円）

で高額な市町村から6番目となっている。これは、終末医療にかわつての話で、在宅で亡くなるより、病院で亡くなられる人が多いという傾向によるかと推測されている。

◇医療費適正化対策

医療費適正化対策として、国保の医療費通知を2か月に1回実施している。医療費通知を送ることによって、医療機関等への受診で、住民から、その有無等について問い合わせがあることにより、気付かされることもあり、医療機関の不正請求などのチェック機能としても有効であると感じることもあるようである。

ジェネリック医薬品の差額通知は年2回実施している。保険証の送付時には、ジェネリック医薬品の促進のチラシなどで広報等も行っていることだった。

レセプト二次点検については、現在、国保連合会に委託しているが、療養費についても平成30年

度に国保連合会の方で委託を受け付けるようなら柔整も含めて、国保連合会に委託しようと考えている。



五條市役所 保険課

◇健康づくりおすすめスポット

おすすめスポットを、五條市保険課で聞くと、一も二もなく、「シダーアリーナ」とかえって来た。五條市上野（こうづけ）町に、上野公園があり、野球場、多目的グラウンド、テニスコートがある。その中で、白眉なのが「スポーツ・遊び・くつろぎの総合体育館

（シダーアリーナ）だ。奥大和の木々をふんだんに使い、温かい空間を醸し出している。平成28年秋に完成し、まもなく1年になる。市民のスポーツ活動に一役を担っている。交通の便もよく、京奈和自動車道の五條西インターを降りるとすぐのところにある。五條市都市整備部公園緑地課よしだひろしの吉田拓司課長に、真新しい建物を案内していただいた。フロアの木目の美しさ、吹き抜けの天井の造形の見事さ、一見に値します。舞台背面からは、カーテンを開けると、外の景色が一望となり、野球場や多目的グラウンドが見える。みなさん、スポーツで汗を流し、健康を享受しましょう。

（文責 米田憲司）



シダーアリーナ全景



シダーアリーナの吹き抜け天井の木組みの美しさ



舞台のカーテンを引くと、外の風景が見える。



シダーアリーナの遠景